

日 付：	令和8年7月22日(水)	報 告	北部地域障がい者相談支援センター
会 議 名：	令和8年度北部地域自立支援協議会第2回幹事会報告		
場 所：	唐津市障がい者支援センターりんく2階大会議室		
時 間：	14:00 ～ 15:15	参加者数：	22
参加関係機関 別紙参加者名簿参照			
内容 ○新規加入事業所の報告 ○子ども：放課後等デイサービスあゆみ様、ワンフラー唐津東町教室様、はっぴい ぱれっと様、児童家庭センター明照様 ○生活：生活介護事業所愛の木様、虹のかがやきコーポはる様、グループホームジェード様 ※7事業所承認 ○第1回佐賀県アドバイザー会議(7月1日)の共有事項 ・概要：佐藤氏(圏域AD)より報告 ○北部圏域では各部会が活発化し、全体会の参加率も向上している。 ○佐賀県では「強度行動障害支援推進協議会」が立ち上がり、実態把握から支援策の検討を進める動きがある。 ○佐賀県の医療的ケア児支援センター→来年度、法改正に伴い対象を大人や難病患者にも拡大。 ◎北部圏域でも強度行動障害者の実態把握が必要であり、分野横断的なワーキンググループ等の立ち上げの提案。 ○強度行動障害者支援に関する意見交換 ・概要：佐藤氏の提案を受け、強度行動障害者支援について意見交換が行われた。 ○井上氏(地域生活支援拠点部会)：入所施設としても課題であり、いろいろな機関からの意見を参考にしたい。 ○加藤氏(生活支援部会)：精神科医療分野でも重要。国は精神科への入院対象から外し、訪問看護が担う方針を示しており(詳細はこれから)、地域での体制構築が急務。 ○広瀬氏(育成会)：幼少期・学童期の関わりや、親への教育(ペアレントトレーニング等)を早期から積極的に行うことが、重度化を防ぐために重要。 ○佐々木氏(唐津市)：環境調整や本人の特性理解が重要。県全体で取り組みが進むことを見守りたい。 ○唐津市障がい者基本計画・自立支援プラン策定について ・概要：堤氏(唐津市)より、今年度が計画策定の年度であることが報告。策定業務は株式会社ぎょうせい九州支社が受託。市民や関係者の意見を反映させるため、今後各部会へのヒアリングが実施される予定。 ▷ヒアリングの進め方： ○市民向けにアンケートを郵送で実施する一方、部会ではヒアリングを実施し、現状や課題、分野ごとの意見を聴取する。 ○ヒアリングは部会当日に30分程度、全体で意見を聴取する形式を想定。→部会により部会員数のバラつきあり考慮が必要。 ○事前(部会実施2週間ほど前)にヒアリングシートを配布し、参加者事前記入。現時点では「参加者全員が記入」を想定。効率化も検討。 ○対象者は「団体で活動されている方」を想定しているが、各部会のメンバー情報を基に正式に確定させる。 ○提出された意見は3月に完成予定の計画書に記載され、市の施策や事業に反映される予定。 ▷意見：部会からの意見がどのように反映されていくのか、今後のスケジュールを示してほしい。また協力依頼文の発行をお願いしたい。 ▷回答：スケジュールの提示と依頼文の発行を行う(唐津市)。 ○専門部会 実施報告 各部長より報告。 ▷意見：子ども支援部会の要望書はいつ頃提出されるのか？(唐津市)→9月中旬に。 生活支援部会ワーキンググループ(WG)からの報告 ○月1回の頻度で開催。居宅介護における見守りの身体介護算定に関する要望書の素案が概ね整備された。 ○要望書は専門職としての視点からサービスの必要性を明確にすることを重視。ただ求めるのではなく、専門職としての責任やそれぞれが自身の支援についてしっかりと責任をもって説明ができるかなど、プロ意識も同時に自分自身に問う。9月に要望書を提出予定。 ○第1回定例会について 日時：令和8年8月26日(水)13:30～ 場所：唐津市健康サポートセンターさんて3階大会議室 ▷第1回定例会のテーマ提案：志水氏(圏域AD)より、県の担当者から強度行動障害支援に関する県の動向について説明を受ける機会を、8月26日の定例会で設ける提案があった。 ・結論：幹事からは賛同の意見。8月26日の第1回定例会のテーマは「強度行動障害支援」とし、県担当者による説明と、北部地域での実態把握や意見交換を行う予定で合意形成された。 ○定例会の実施を通し、県全体の動向を注視し、協力を得ながらワーキンググループの立ち上げなどにより、北部圏域でも協議を行っていく方向で一致した。 ○卒業後の余暇活動・スポーツ振興に関する提案 ・概要：広瀬氏(育成会)より、卒業後の本人の役割や余暇活動(特にスポーツ振興)をテーマとして取り上げる提案があった。 ・各部会の検討可能性： ○相談部会：ピア活動など新しい居場所の検討の必要性。 ○生活支援部会：フォーマル・インフォーマルな日中活動の情報収集と発信。部会横断的な議論の可能性。 ○拠点部会：体験機会の提供や小規模なスポーツ大会の機会創出。 ○就労部会：余暇活動について事業所単位の取り組みを行ったが、継続できなかった。 ○子ども支援部会：スポーツの大切さは理解している。部会でも取り上げていけると思う。 ・結論：各部会でスポーツ振興や余暇活動のテーマを検討し、幹事会で報告することになった。			